

14. 藁カッター

①藁が詰まり、カバーを外そうとしたらカバーが吹き飛び、頭部直撃 (平成21年12月14時頃、プルーン畑、男・59歳)

自宅裏のプルーン畑にて、自走式藁カッターを操作中、藁が詰まったので、エンジンを止めず、カッターのクラッチも切らず、カバーを開けようとしたら、カバーが突然外れ、10m上空に吹っ飛んだ。

カバーが外れたとき、中の詰まったワラの状態を覗き込もうとしていたので、頭部にカバーがまともに当たり、30分ぐらい動けなかった。すぐ近くの土手でうずくまるように倒れていた。みるみるう



ちに、こぶが出来た。腫れ上がりの厚さ2cm、直径5cmぐらいの大きさだった。3cmぐらい切れて血が出たので、大丈夫だと思った。大きな声で奥さんと呼んだ。タオルを持って駆けつけてくれたので、頭を押さえるようにして自宅(約100m)まで連れて行ってもらった。自宅で、冷やしながら2時間休んだ。こぶは3日で引けた。自宅にあった軟膏を塗って治療した。

ワラカッターは振動が激しいので、ネジがゆるみやすく、一気に外れることもあるので、詰まったらエンジンを切る、クラッチを切る。とくに、詰まっていたワラがカバーに強い力を与え、激しくカバーを吹っ飛ばすことになった。また、15cmぐらいのカッターの刃の一部がいつのまにか欠けており、それがワラ詰まりの原因にもなっていた。ヘルメット、防護眼鏡の着用も必要。

②藁カッターが詰まったので、エンジンを止め、プーリーを回して、指裂傷 (平成22年11月8時半頃 水田 男・66歳)

水田で、固定式藁カッターを軽トラックに乗って作業。藁カッターが古く、藁を2把切るごとに詰まってしまった。その度にイライラして、取り除いていた。エンジンを止めプーリーを逆回転させながら取っていて、指を挟んだ。左手小指怪我。携帯電話で奥さんに連絡、車で約3分の近医受診。小指は骨が見えており5針、薬指2針縫った。通院10日、1週間で抜糸。

カッターは中古でもらった物で、その後新しいもの買い換えた。

いずれにしても、カッターの詰まらない機械、また、詰まってもワンタッチでカバーなどが開閉でき、詰まり除去できる機械の開発はできないものだろうか。

15. 電動丸ノコ・電動カンナ

電動丸ノコ1例、電動カンナ1例である。

①薬用人参用杭を丸ノコで作っていて、木っ端が飛び額を直撃 (平成23年 2月14時頃、作業所、男・74歳)

薬用エンジンの栽培小屋をつくるために杭や角材や板などを自分で製材し、調達する。事故当日も作業場で直径20cmの丸太を丸ノコで製材していて、木っ端が額に飛んできて当たった。

額が10cmぐらい切れて血が大量に出た。薬用エンジンを栽培する限り避けては通れないが、この作業が一番危険。仲間には指のない人もたくさんいる、との事である。

家人が救急車を呼んでくれた。救急車が来るまで8分、病院まで8分の合計16分だった。近くに病院があることの実感した。専門医の整形外科医が待っていてくれ救急外来で緊急手術。細かく33針縫った。入院5日間、以後通院、治癒。傷跡はほとんど分からなくなった。



卓上の電動丸ノコなどについては、特に事故の発生が多い事から、「中小企業産業安全委員会」などが、安全講習会などを開催し、防護や作業方法について注意を呼びかけている。

農作業現場では、特にこのような講習会が設けられる事がないが、日常的に使う人の講習会も必要と考えられる。



②杭を作っているとき、電気カンナの刃に指が巻き込まれ、切創 (平成23年 2月11時半頃、畑の横、男・70歳)

自宅近くの畑で、電動カンナ（2010年暮れに建築関係の仕事に使用していたものを友人から1万円で譲ってもらった）で、杭を削っていた。残り数本で終わるといふときに、指をカンナに近づけすぎ、左手第4指の先が刃に巻き込まれた。指先の爪の3分の1ぐらいが削られ、軍手と一緒にとれた。

輪ゴムで縛って止血したが、なかなか血が止まらないので、奥さんの車で病院（車で15

分)を受診。他に急患がいたことや、書類の記入などでしばらく待たされた。レントゲン撮影をし、麻酔して治療した。その後は医療機関にはかかっていない。10か月を経過して傷痕は残っていないが、指先の感覚がない。

本人によれば、短く切ってから削ったのがいけなかった。長いまま、切る前に削るか、あるいは添え木などを利用すればよかった、との事であり、以後事故について注意している。

両事例とも、ヘルメットや防護眼鏡を装着していない。必ずしも、この部分だけが傷を受けるわけではないが、簡単な防護装備をする事で、自身の安全への心構えを確認すると事に繋がると考えられる。

16. 米選別機

縦型米選別機清掃中、選別ハイホン取り出し中、膝剥離骨折
(平成22年8月 11時頃、農作業所 男・56歳)

秋作業を控え、高さ162 c mの縦型米選別機を掃除・点検していた。高さ103 c mの脚立に登り、上部から米を選別する米選筒を取り出し、その次に米を選別する約30 k gの高さ98 c mのハイホンを取り出したところ、ハイホンがやや傾き、一番下の部分が左足に接触し、膝の直ぐ上を切ってしまった。出血が激しかったので、タオルで止血したが、出血が止まらないので病院へ行った。病院では1時間半以上待ち、



脚立に乗って、ハイホンを取りだそうとして、下部で膝を強打。裂傷・骨折

医師が来るまでの間は看護師が挫傷箇所を押えていた。その後、治療では傷口を塞ぐため3針縫合術を行い、念のため、レントゲンを撮った結果、膝剥離骨折であった。

米選機、ハイホンの高さに対して脚立が低く、かつ不安定。フォークリフトなどで足場を固める必要があった。

17. ライムソワー

ライムソワー排出口のゴミと取り中、蓋が閉まり、指切断
(平成22年 6月14時頃、大豆畑、男・60歳)

大豆畑において、トラクターにライムソワー（肥料を巻く機械）を使って苦土石灰を散布中、シャッターが閉じた状態でも、肥料が落ちていた。排出口にゴミが嘔んでシャッターが閉まらないためと思い、P T Oのみを切ってプライヤーで詰まったため取り除いた瞬間、シャッターがしまり、指が切断された。



事故発生後、近くにいた娘さんに電話をし、近くの病院へ向かった。病院には30分後に到着した。8針を縫う手術をし、治療のため3ヶ月間通院した。

ライムソワーの事故の多くは、詰まり除去の際である。除去時の注意はもちろんであるが、もう少し詰まらない機械の開発はできないものであろうか。

18. 除雪機

側溝に落ちそうになった除雪機を止めようとして、脚強打
(平成24年 1月 6時半頃、県道 男・61歳)

早朝4時半頃より除雪機で農作業所の除雪。さらに道路脇の雪の除雪作業を行っていた。6段変速のうち5段変速で使用。また、スパイク靴も履いていた。除雪機が側溝に落ちそうになったので、除雪機を止めようとしたところ、足が滑って除雪機の安全装置に左足膝の下をぶつけ左足を負傷した。本人は、圧雪で凍っているとは思っていなかった。



除雪機
重さ700^{kg}、
ハンドル高さ87cm、
安全バー高さ40cm



脚が滑り、安全バーに強打



除雪機は昭和63年購入し操作は慣れていた。ただし全重量700^{kg}もあり、本人は高齢になって操作するには、難儀との事。

最近、除雪機の事故が目立つ。今回の事例ではないが、雪が詰まり、その詰まりを除くため負傷する例が、時々報告されており、要注意機種である。